

ごみの減量化・資源化目標

1. 計画の目標年度

新しく策定する一般廃棄物処理基本計画は、令和7年度を初年度とし、計画目標年度を10年後の令和16年度とします。

2. 人口及びごみ排出量の推計方法

本計画の計画期間である、令和7年度から令和16年度の10年間について、図1に示す推計フローに基づき、人口及びごみ排出量の推計を行います。

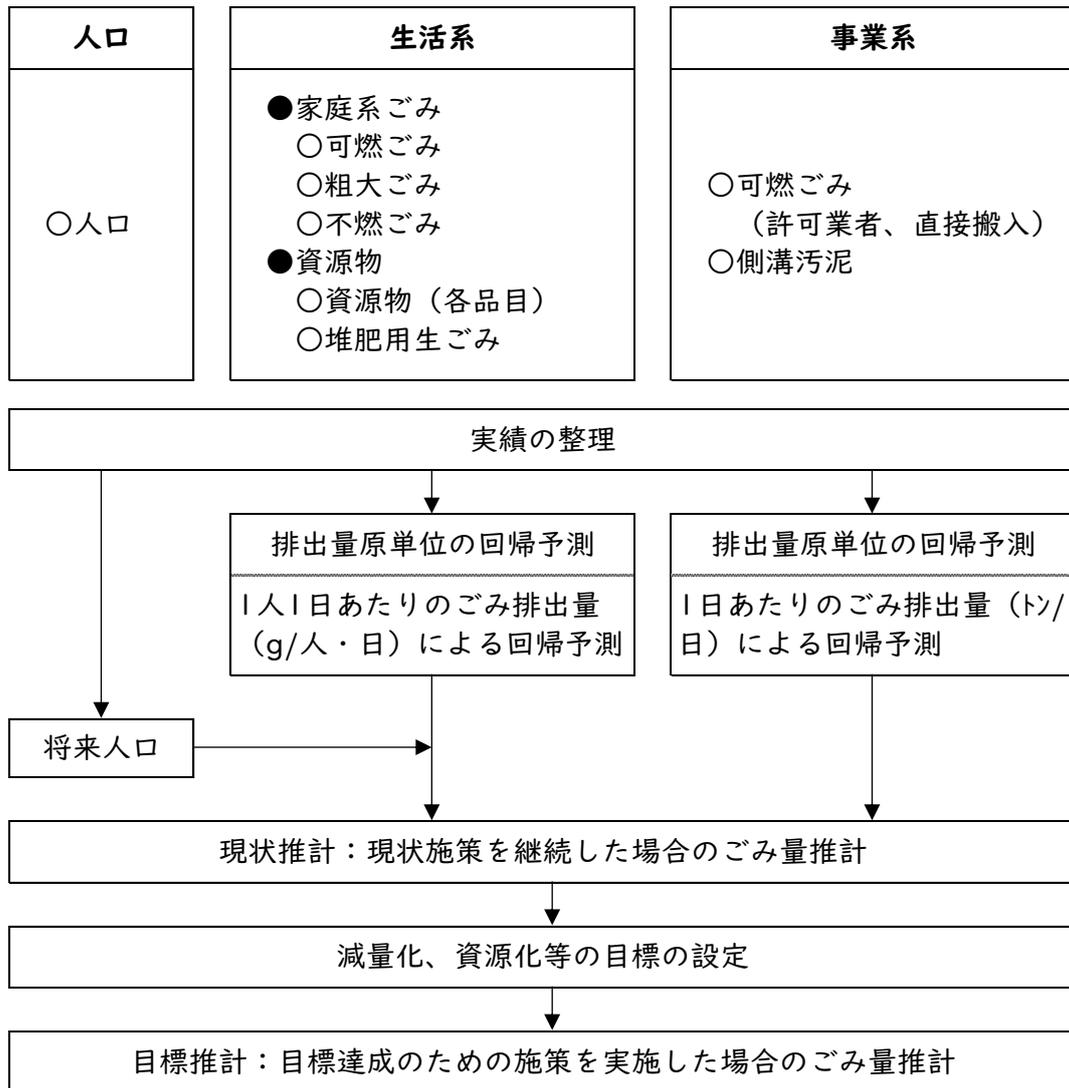


図1 推計フロー

(1) 将来人口の推計方法

蕨市及び戸田市では、上位計画などにおいてそれぞれ将来人口の推計を行っています。したがって、上位計画における将来人口を基に、必要に応じて補正を行うことで推計を行います。

(2) 将来ごみ排出量の推計方法

生活系ごみ排出量の現状推計については、1人1日あたりのごみ排出量を排出量原単位として回帰予測により設定し、将来人口及び年間日数を乗じることによって推計します。

また事業系ごみ排出量の現状推計については、1日あたりのごみ排出量を排出量原単位として回帰予測により設定し、年間日数を乗じることによって推計します。

なお、令和2年度から令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、それまで減少傾向にあった家庭系ごみが増加し、増加傾向にあった事業系ごみが減少するなどの状況となりましたが、新型コロナウイルス感染症の平常化や景気の回復を受けてごみ量は従来の傾向に戻りつつあります。

そのため令和2年度から令和4年度は、回帰予測に用いる実績から除外して推計を行います。

また、目標推計については、現状推計結果に対して、各種施策を実施した場合の減量化、資源化効果を上乘せすることによって推計します。

生活系ごみ排出量原単位 (g/人・日)

$$= \text{年間生活系ごみ排出量 (ト/年)} \div \text{計画収集人口 (人)} \\ \div \text{年間日数 (365 日または 366 日)} \times 10^6$$

事業系ごみ排出量原単位 (ト/日)

$$= \text{年間事業系ごみ排出量 (ト/年)} \div \text{年間日数 (365 日または 366 日)}$$

(3) 回帰予測の考え方

ある変数(目的変数)について、別の変数(説明変数)を用いて将来の値を予測するための予測式を、回帰式といいます。

将来ごみ量の推計にあたっては、排出量原単位(=目的変数)について、時系列(=説明変数)に沿って将来ごみ排出量を予測する、回帰予測を行います。

表1に示す回帰式による予測値のうち、予測値としての整合性や実績値を踏まえ、採用する将来ごみ排出量を決定します。今回は、⑥の対数式による予測値が最も適していたため採用しています。

表1 回帰式

① 一次式	$Y = aX + b$
② 二次式	$Y = aX^2 + bX + c$
③ 指数式	$Y = ab^X$
④ べき曲線	$Y = Y_0 + aX^b$
⑤ ロジスティック	$Y = K / (1 + a \times e^{-bX})$
⑥ 対数式	$Y = a \times \log X + b$

※ Y: 目的変数、X: 説明変数

a, b, Y₀, K: 実績値より定まる定数

e: ネイピア定数(定められている定数)

3. 将来人口の推計

(1) 蕨市の将来人口

蕨市の将来人口の推計結果を図2に示します。

蕨市では平成27年度に「蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」において将来展望人口の推計を行っています。

しかし、実績と将来展望人口では乖離が生じていることから、今回の計画策定にあたっては、その差を推計値に上乗せする補正を行った人口を将来人口として設定します。

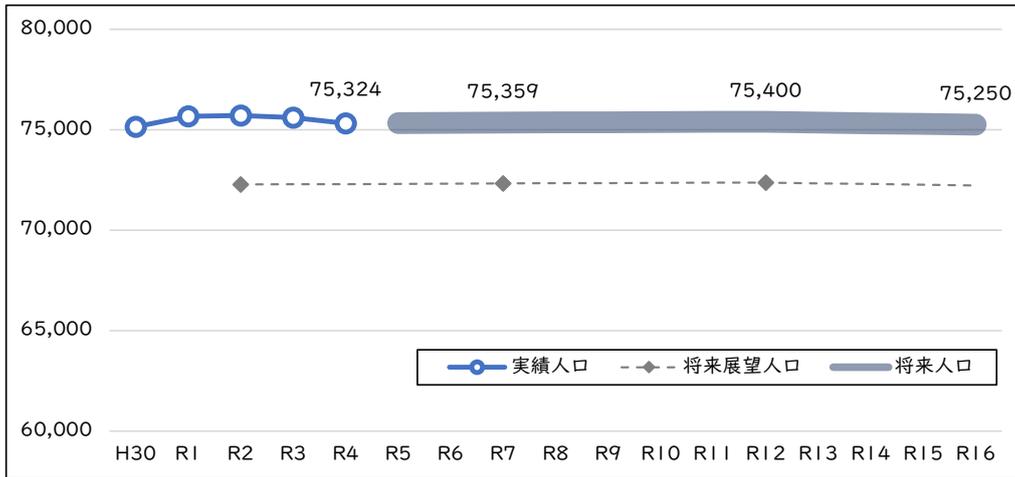


図2 将来人口（蕨市）

(2) 戸田市の将来人口

戸田市の将来人口の推計結果を図3に示します。

戸田市では平成27年度に「戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る人口ビジョン」において将来展望人口の推計を行っています。しかし、実績と将来展望人口では乖離が生じたため、令和元年度に再推計を行っています。

したがって、再推計した結果を将来人口として設定します。

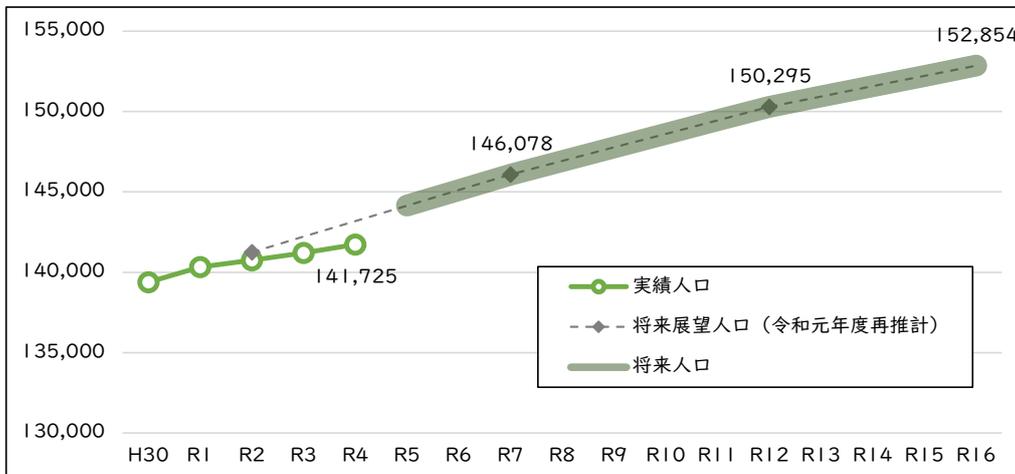


図3 将来人口（戸田市）

(3) 2市合計の将来人口

2市合計の将来人口の推計結果を図4に示します。

今後10年間で約10,000人の増加が見込まれています。

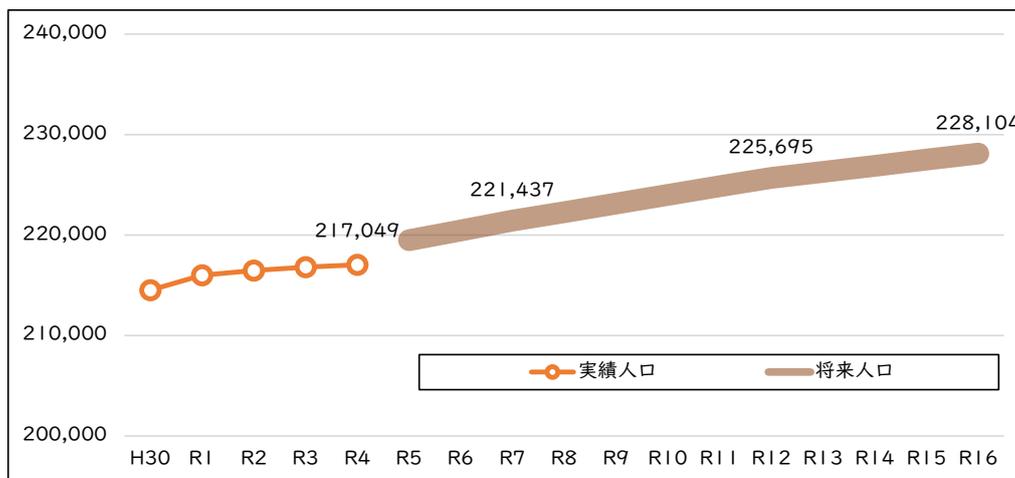


図4 将来人口（2市合計）

4. 現状推計（現状施策を継続した場合のごみ量推計）

蕨市、戸田市及び2市合計の、現状推計（現状施策を継続した場合のごみ量推計）結果を図5～図7に示します。

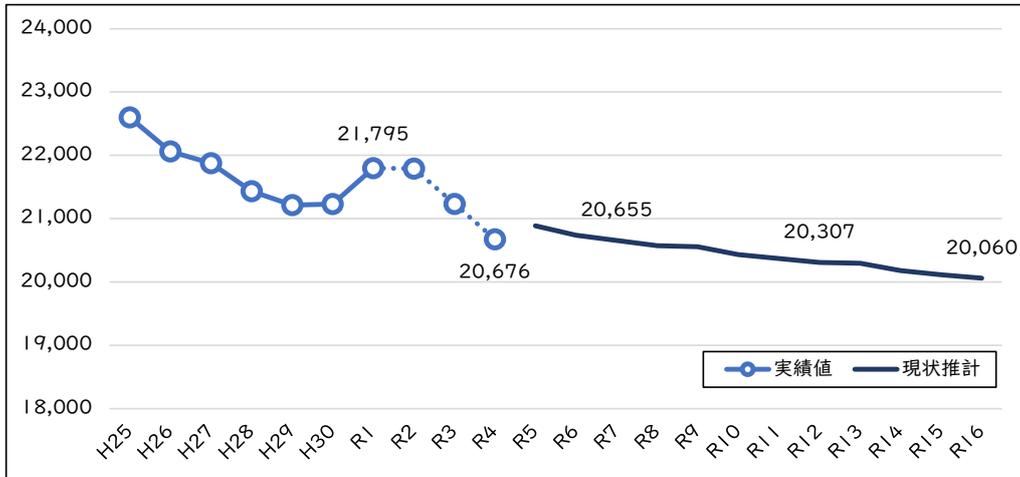


図5 現状推計によるごみ総排出量（蕨市）：対数式を採用

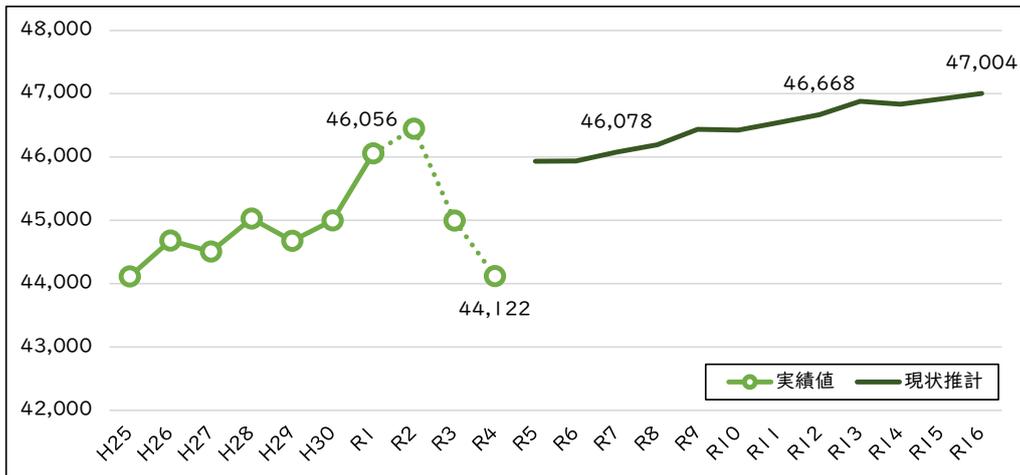


図6 現状推計によるごみ総排出量（戸田市）：対数式を採用

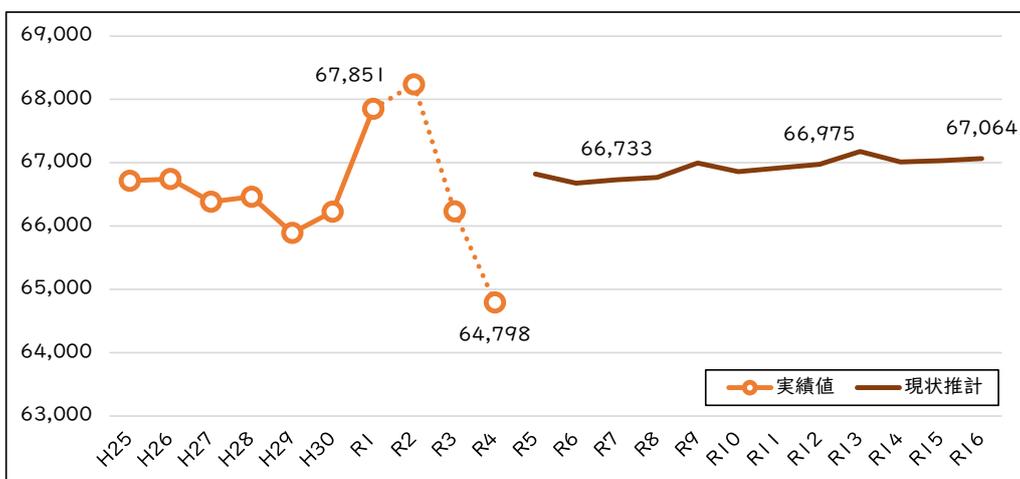


図7 現状推計によるごみ総排出量（2市合計）：対数式を採用

5. 各計画目標値の達成の見通し

(1) 既存計画目標値

蕨市、戸田市、蕨戸田衛生センター組合の既存計画では、令和9年度を目標年度として目標値を設定しています。

現状推計における目標値の達成の見通しを表2に示します。

全ての項目において目標値を達成しておらず、ごみのさらなる減量化、資源化が必要である一方、目標値やその達成に向けての施策が市民に対して過負荷とならないよう、目標値の見直しも必要です。

表2 既存計画目標値の達成の見通し

			実績値			推計値
			平成25年度	平成29年度	令和4年度	令和9年度
			計画初年度			目標年度
蕨市	ごみ排出量 (トン)	目標値	—	20,000	19,000	18,000
		現状推計値	22,600	21,215	20,676	20,559
		達成状況	—	× +1,215	× +1,676	× +2,559
	1人1日あたりの排出量 (g/人・日)	目標値	—	741	700	660
		現状推計値	858	783	752	745
		達成状況	—	× +42	× +52	× +85
	焼却処理量 (トン)	目標値	—	16,000	15,000	14,000
		現状推計値	18,141	17,513	16,934	17,250
		達成状況	—	× +1,513	× +1,934	× +3,250
戸田市	ごみ排出量 (トン)	目標値	—	38,000	36,000	35,000
		現状推計値	44,116	44,676	44,122	46,436
		達成状況	—	× +6,676	× +8,122	× +11,436
	1人1日あたりの排出量 (g/人・日)	目標値	—	779	706	661
		現状推計値	931	883	853	859
		達成状況	—	× +104	× +147	× +198
	焼却処理量 (トン)	目標値	—	31,000	29,000	28,000
		現状推計値	36,388	37,787	37,114	40,001
		達成状況	—	× +6,787	× +8,114	× +12,001
2市合計	ごみ排出量 (トン)	目標値	—	58,000	55,000	53,000
		現状推計値	66,716	65,891	64,798	66,995
		達成状況	—	× +7,891	× +9,798	× +13,995
	1人1日あたりの排出量 (g/人・日)	目標値	—	766	704	661
		現状推計値	905	848	818	820
		達成状況	—	× +82	× +114	× +159
	焼却処理量 (トン)	目標値	—	47,000	44,000	42,000
		現状推計値	54,529	55,299	54,048	57,251
		達成状況	—	× +8,299	× +10,048	× +15,251
	資源化率 (%)	目標値	できるだけ早い時期に25%を目指す			
		現状推計値	23.7%	19.5%	20.7%	18.9%
		達成状況	× -1.3pt	× -5.5pt	× -4.3pt	× -6.1pt

(2) 国、県目標値

減量化、資源化の目標設定にあたっては、国や県の目標値を考慮する必要があります。

第2回一般廃棄物処理基本計画等策定委員会の資料2で示したとおり、国の「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」（以下、「基本的な方針」という。）と「第四次循環型社会形成推進基本計画」（以下、「循環基本計画」という。）、及び県の「第9次埼玉県廃棄物処理基本計画」（以下、「県基本計画」という。）において目標値が設定されています。

現状推計における各目標値の達成の見通しを表3～表5に示します。

蕨市と2市合計は1人1日あたりのごみ総排出量、戸田市は1人1日あたりの家庭系ごみ排出量で、それぞれ目標を達成しています。その他の目標の達成に向けては、蕨市は家庭系ごみ排出量の減量、戸田市は事業系ごみ排出量の減量、組合は資源化率の向上に向けた取組を進める必要があります。

なお、循環基本計画は現在第五次循環基本計画の策定が進められております。

表3 国、県目標値の達成の見通し（蕨市）

			実績値	推計値		備考
			令和4年度	令和7年度	令和9年度	
基本的な方針	ごみ総排出量 (トン)	目標値	—	19,027	—	H24比16%減
		現状推計値	20,676	20,655	20,559	
		達成状況	—	× +1,628	—	
	資源化率 (%)	目標値	—	—	28.0%	
		現状推計値	22.2%	20.5%	20.3%	
		達成状況	—	—	× -7.7%	
	最終処分量 (トン)	目標値	—	779	—	H24比31%減
		現状推計値	893	911	909	
		達成状況	—	× +132	—	
	1人1日あたりの 家庭系ごみ排出量 (g/人・日)	目標値	—	440	—	※1
		現状推計値	464	461	458	
		達成状況	—	× +21	—	
循環基本計画	1人1日あたりの ごみ総排出量 (g/人・日)	目標値	—	850	—	
		現状推計値	752	751	745	
		達成状況	—	○ -99	—	
	1人1日あたりの 家庭系ごみ排出量 (g/人・日)	目標値	—	440	—	※1
		現状推計値	464	461	458	
		達成状況	—	× +21	—	
資源化率 (%)	目標値	—	28.0%	—	※2	
	現状推計値	22.2%	20.5%	20.3%		
	達成状況	—	× -7.5%	—		
県基本計画	1人1日あたりの 家庭系ごみ排出量 (g/人・日)	目標値	—	440	—	※1
		現状推計値	464	461	458	
		達成状況	—	× +21	—	
	事業系ごみ排出量 (トン)	目標値	—	3,799	—	H30比16%減
		現状推計値	3,993	4,493	4,502	
		達成状況	—	× +694	—	
	1人1日あたりの 最終処分量 (g/人・日)	目標値	—	28	—	
		現状推計値	32	33	33	
達成状況		—	× +5	—		
資源化率 (%)	目標値	—	33.6%	—	※2	
	現状推計値	22.2%	20.5%	20.3%		
	達成状況	—	× -13.1%	—		

※1, 2: それぞれ同一の目標

※1人1日あたりの家庭系ごみ排出量には、資源は含まれない

表4 国、県目標値の達成の見通し（戸田市）

			実績値	推計値		備考
			令和4年度	令和7年度	令和9年度	
基本的な方針	ごみ総排出量 (トン)	目標値	—	36,308	—	H24比16%減
		現状推計値	44,122	46,078	46,436	
		達成状況	—	× +9,770	—	
	資源化率 (%)	目標値	—	—	28.0%	
		現状推計値	20.0%	18.5%	18.3%	
		達成状況	—	—	× -9.7%	
	最終処分量 (トン)	目標値	—	1,515	—	H24比31%減
		現状推計値	1,956	2,088	2,108	
		達成状況	—	× +573	—	
	1人1日あたりの 家庭系ごみ排出量 (g/人・日)	目標値	—	440	—	※1
		現状推計値	434	434	431	
		達成状況	—	○ -6	—	
循環基本計画	1人1日あたりの ごみ総排出量 (g/人・日)	目標値	—	850	—	
		現状推計値	853	864	859	
		達成状況	—	× 14	—	
	1人1日あたりの 家庭系ごみ排出量 (g/人・日)	目標値	—	440	—	※1
		現状推計値	434	434	431	
		達成状況	—	○ -6	—	
資源化率 (%)	目標値	—	28.0%	—	※2	
	現状推計値	20.0%	18.5%	18.3%		
	達成状況	—	× -9.5%	—		
県基本計画	1人1日あたりの 家庭系ごみ排出量 (g/人・日)	目標値	—	440	—	※1
		現状推計値	434	434	431	
		達成状況	—	○ -6	—	
	事業系ごみ排出量 (トン)	目標値	—	12,561	—	H30比16%減
		現状推計値	14,328	16,086	16,320	
		達成状況	—	× +3,525	—	
	1人1日あたりの 最終処分量 (g/人・日)	目標値	—	28	—	
		現状推計値	38	39	39	
達成状況		—	× +11	—		
資源化率 (%)	目標値	—	33.6%	—	※2	
	現状推計値	20.0%	18.5%	18.3%		
	達成状況	—	× -15.1%	—		

※1, 2：それぞれ同一の目標

※1人1日あたりの家庭系ごみ排出量には、資源は含まれない

表5 国、県目標値の達成の見通し（2市合計）

			実績値	推計値		備考
			令和4年度	令和7年度	令和9年度	
基本的な方針	ごみ総排出量 (トン)	目標値	—	55,335	—	H24比16%減
		現状推計値	64,798	66,733	66,995	
		達成状況	—	× +11,398	—	
	資源化率 (%)	目標値	—	—	28.0%	
		現状推計値	20.7%	19.1%	18.9%	
		達成状況	—	—	× -9.1%	
	最終処分量 (トン)	目標値	—	2,294	—	H24比31%減
		現状推計値	2,849	2,999	3,017	
		達成状況	—	× +705	—	
	1人1日あたりの 家庭系ごみ排出量 (g/人・日)	目標値	—	440	—	※1
現状推計値		445	443	440		
達成状況		—	× +3	—		
循環基本計画	1人1日あたりの ごみ総排出量 (g/人・日)	目標値	—	850	—	
		現状推計値	818	826	820	
		達成状況	—	○ -24	—	
	1人1日あたりの 家庭系ごみ排出量 (g/人・日)	目標値	—	440	—	※1
		現状推計値	445	443	440	
		達成状況	—	× +3	—	
	資源化率 (%)	目標値	—	28.0%	—	※2
		現状推計値	20.7%	19.1%	18.9%	
		達成状況	—	× -8.9%	—	
	県基本計画	1人1日あたりの 家庭系ごみ排出量 (g/人・日)	目標値	—	440	—
現状推計値			445	443	440	
達成状況			—	× +3	—	
事業系ごみ排出量 (トン)		目標値	—	16,360	—	H30比16%減
		現状推計値	18,321	20,579	20,822	
		達成状況	—	× +4,219	—	
1人1日あたりの 最終処分量 (g/人・日)		目標値	—	28	—	
		現状推計値	36	37	37	
		達成状況	—	× +9	—	
資源化率 (%)		目標値	—	33.6%	—	※2
	現状推計値	20.7%	19.1%	18.9%		
	達成状況	—	× -14.5%	—		

※1, 2: それぞれ同一の目標

※1人1日あたりの家庭系ごみ排出量には、資源は含まれない

6. 目標推計（目標達成のための施策を実施した場合のごみ量推計）

（1）目標の考え方

2市合計で国、県の目標達成（目標年度：令和7年度または令和9年度）を目指す場合、表6に示す通り、令和4年度から令和7年度までの3年間でごみ総排出量は約9,500トン、事業系ごみ排出量は約2,000トンの減量が必要となります。

しかし平成29年度から令和4年度までの5年間では、人口の増加も影響し、ごみ総排出量は約1,100トン、事業系ごみ排出量は約400トンの減量に留まっています。

さらなる減量や資源化を目指す必要はありますが、人口の増加や経済の回復が見込まれる状況下において、令和7年度または令和9年度での国、県の目標達成は困難と考えられます。

そこで、各種施策を実施した場合の、本計画の目標年度（令和16年度）における、ごみの量などの試算を、国や県の目標指標を参考に比較検討します。

表6 ごみの減量状況と必要削減量（2市合計）

		実績値		国、県目標値
		平成29年度	令和4年度	令和7年度
ごみ総排出量 (トン)	排出量	65,891	64,798	55,335
	削減量	—	-1,093	-9,463
事業系ごみ排出量 (トン)	排出量	18,736	18,321	16,360
	削減量	—	-415	-1,961

（2）目標達成のための施策

ごみ量の推計にあたっては、減量化・資源化施策として、主に以下の施策について検討します。

① 生ごみの減量推進（生活系：減量化）

令和4年度食品ロス実態調査結果（ごみ袋より）によると、生活系可燃ごみには、蕨市で約35.81%、戸田市で約34.99%の生ごみが含まれています。また、家庭から排出される生ごみのうち、約80%は水分であると言われています。

家庭における生ごみの水切りや、生ごみそのものの減量について啓発し、生活系可燃ごみに含まれる生ごみの減量を図ります。

② 食品ロスの削減推進（生活系：減量化）

「食品ロスの削減の推進に関する法律」の令和元年10月の施行に伴い、市町村には、食品ロスの削減に向けた普及啓発や食品関連事業者の取組支援などが求められています。

令和4年度食品ロス実態調査結果（ごみ袋より）によると、生活系可燃ごみには、蕨市で約16.05%、戸田市で約11.89%の食品ロスが含まれています。

食品ロスの削減について啓発することにより、生活系可燃ごみに含まれる食品ロスの減量を図ります。

③ プラスチックの資源化推進（生活系：資源化）

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の令和 4 年 4 月の施行に伴い、市町村には、使用済みプラスチック使用製品の収集や資源化などが求められています。

令和 4 年度食品ロス実態調査結果（ごみ袋より）によると、生活系可燃ごみには、蕨市で約 2.08%、戸田市で約 3.04%のプラマークのないプラスチック製品が含まれています。

蕨市、戸田市、組合においてプラスチック製品の収集・資源化の検討・対応をすることにより、生活系可燃ごみに含まれるプラスチック製品の資源化を図ります。

④ 資源物の分別強化（生活系：資源化）

令和 4 年度食品ロス実態調査結果（ごみ袋より）によると、生活系可燃ごみには、容器包装プラスチック（汚れなし、もしくは汚れが落とせるもの）が蕨市で約 8.82%、戸田市で約 6.82%、紙類（新聞・チラシ、雑誌、ダンボール、紙パック）が蕨市で約 3.65%、戸田市で約 4.65%、その他の紙類が蕨市で約 5.15%、戸田市で約 6.61%含まれています。

資源物の適正な分別を啓発することにより、容器包装プラスチック、紙類及びその他の紙類のさらなる資源化を図ります。

⑤ 粗大ごみのリユース推進（生活系：減量化）

粗大ごみには、家具や寝具などまだ使用できるものの、引越しなど生活スタイルの変更に伴い不要になったものなどが含まれています。

地域情報サイトやフリーマーケットなどを通じた、市民間でのリユースを促進することにより、蕨戸田衛生センターに搬入される粗大ごみの減量化を図ります。

⑥ 事業者の適正排出推進（事業系：減量化）

令和 4 年度ごみ組成調査結果（ごみピットより）によると、可燃ごみには約 10.6%のプラスチック類が含まれています。また、随時実施している事業系ごみを対象とする搬入時検査においても、廃プラスチック類が多く含まれていることが判明しています。

事業活動に伴って排出されるプラスチック類は蕨戸田衛生センターへ搬入せず産業廃棄物として処理しなければならないことから、事業者に対し適正排出やりサイクルについて啓発することにより、蕨戸田衛生センターに搬入されるプラスチック類の減量化を図ります。

⑦ 事業者の資源化推進（事業系：減量化）

令和 4 年度ごみ組成調査結果（ごみピットより）によると、可燃ごみには厨芥類が約 42.8%、紙類が約 28.3%含まれています。

事業者に対する資源化の啓発や情報提供などを推進することにより、蕨戸田衛生センターに搬入される厨芥類、紙類の減量化を図ります。

⑧ 焼却灰の資源化推進（資源化）

令和 4 年度実績によると、ごみを焼却処理した後に発生する灰のうち、陶器やガラスくずなどの燃え残り（不燃物残渣）は全量資源化していますが、ごみを燃やしたガスに含まれる灰などをセメントなどで固めた固化灰のうち資源化した割合は約 19.7%となっており、残りは埋立処分しています。

蕨市、戸田市、組合において固化灰の資源化の検討・対応をすることにより、最終処分量を減量するとともに、資源化率の向上を図ります。

(3) 各施策の効果率の試算

各施策の効果について、3 ケースの試算を行い、効果の変動による目標達成への影響を確認します。各施策の効果率試算結果を表7、表8に示します。

ケース1は、排出者である市民や事業者の協力により目標達成を目指すケースです。

ケース2は、ケース1と比較して一部の施策効果率を低く見込み、中間処理後の灰の資源化について、コストをかけて埋立処分から資源化への切り替えを進めることで目標達成を目指すケースです。

ケース3は、国や県の計画で一律に定める目標達成を目指すケースです。

表7 各施策の効果率試算結果（蕨市）

施策	対象品目		組成割合	施策効果率		
				ケース1 灰資源化 なし	ケース2 灰資源化 あり	ケース3 国県目標 達成
① 生ごみの減量推進	生活系可燃ごみ	生ごみ	35.81%	3%	3%	17%
② 食品ロスの削減推進		食品ロス	16.05%	3%	3%	17%
③ 製品プラスチックの資源化推進		製品プラスチック	2.08%	50%	50%	80%
④ 資源物の分別強化		容器包装プラスチック	8.82%	19%	5%	30%
		紙類	3.65%	19%	5%	30%
		その他の紙類	5.15%	19%	5%	30%
⑤ 粗大ごみのリユース推進	生活系粗大ごみ	粗大ごみ	—	5%	5%	10%
⑥ 事業者の適正排出推進	事業系可燃ごみ	プラスチック類	10.60%	3%	3%	19%
⑦ 事業者の資源化推進		厨芥類	42.80%	3%	3%	19%
		紙類	28.30%	3%	3%	19%
⑧ 焼却灰の資源化推進	焼却残渣	固化灰	—	0%	24%	100%

※組成割合及び施策効果率は重量ベースを示す。

表8 各施策の効果率試算結果（戸田市）

施策	対象品目		組成割合	施策効果率		
				ケース1 灰資源化 なし	ケース2 灰資源化 あり	ケース3 国県目標 達成
① 生ごみの減量推進	生活系可燃ごみ	生ごみ	34.99%	3%	3%	19%
② 食品ロスの削減推進		食品ロス	11.89%	3%	3%	19%
③ 製品プラスチックの資源化推進		製品プラスチック	3.04%	50%	50%	80%
④ 資源物の分別強化		容器包装プラスチック	6.82%	21%	5%	45%
		紙類	4.65%	21%	5%	45%
		その他の紙類	6.61%	21%	5%	45%
⑤ 粗大ごみのリユース推進	生活系粗大ごみ	粗大ごみ	—	5%	5%	10%
⑥ 事業者の適正排出推進	事業系可燃ごみ	プラスチック類	10.60%	5%	5%	31%
⑦ 事業者の資源化推進		厨芥類	42.80%	5%	5%	31%
		紙類	28.30%	5%	5%	31%
⑧ 焼却灰の資源化推進	焼却残渣	固化灰	—	0%	24%	100%

※組成割合及び施策効果率は重量ベースを示す。

(4) 将来推計結果まとめ（目標値試算）

3 ケースについての目標達成状況を表9～表11に示します。

2 市合計について、ケース1では、1人1日当たりの家庭系ごみ排出量及び1人1日あたりのごみ総排出量のみ国や県の目標を達成していますが、現状推計よりさらなる減量化が進み、かつ資源化率も向上しています。

ケース2では、ケース1に加え、資源化率を維持しつつ、最終処分量及び1人1日あたりの最終処分量について国や県の目標を達成しています。

ケース3では、ごみ総排出量及び県基本計画の資源化率以外の国や県の目標を達成しています。ごみ総排出量については、特に戸田市において人口が大きく増加していることから達成が困難となっています。また資源化率については、ごみの減量に伴う資源物の減量や、資源物そのものの軽量化も影響し、向上させることが難しい傾向にあります。

以上の3つのケースについて検討した結果、市民や事業者の協力を得ながら、最終処分量の削減などの課題に積極的に取り組んでいくケース2が適していると考えられます。なお、今回の試算における効果率や目標推計値については、今後、より詳細な検討を行うものとします。

表9 各施策を講じた場合の国、県目標値の達成状況（2市合計）

			国県 目標値	現状推計 (R16)	目標推計値 (R16)		
					ケース1 灰資源化 なし	ケース2 灰資源化 あり	ケース3 国県目標 達成
基本 的 な 方 針	ごみ総排出量	トン	55,335	67,064	65,786	65,786	59,623
	資源化率	%	28.0%	18.5%	20.4%	20.5%	28.0%
	最終処分量	トン	2,294	3,038	2,908	2,240	3
	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	g/人・日	440	431	406	417	365
基本 循 環 計 画	1人1日あたりのごみ総排出量	g/人・日	850	805	790	790	716
	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	g/人・日	440	431	406	417	365
	資源化率	%	28.0%	18.5%	20.4%	20.5%	28.0%
県 基 本 計 画	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	g/人・日	440	431	406	417	365
	事業系ごみ排出量	トン	16,360	21,261	20,473	20,473	16,341
	1人1日あたりの最終処分量	g/人・日	28	36	35	27	0
	資源化率	%	33.6%	18.5%	20.4%	20.5%	28.0%

表10 各施策を講じた場合の国、県目標値の達成状況（蕨市）

			国県 目標値	現状推計 (R16)	目標推計値 (R16)		
					ケース1 灰資源化 なし	ケース2 灰資源化 あり	ケース3 国県目標 達成
基本 的 な 方 針	ごみ総排出量	トン	19,027	20,060	19,776	19,776	18,500
	資源化率	%	28.0%	19.7%	21.6%	21.6%	28.0%
	最終処分量	トン	779	894	861	663	1
	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	g/人・日	440	451	427	437	391
基 本 循 環 画	1人1日あたりのごみ総排出量	g/人・日	850	730	720	720	674
	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	g/人・日	440	451	427	437	391
	資源化率	%	28.0%	19.7%	21.6%	21.6%	28.0%
県 基 本 計 画	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	g/人・日	440	451	427	437	391
	事業系ごみ排出量	トン	3,799	4,479	4,373	4,373	3,785
	1人1日あたりの最終処分量	g/人・日	28	33	31	24	0
	資源化率	%	33.6%	19.7%	21.6%	21.6%	28.0%

表11 各施策を講じた場合の国、県目標値の達成状況（戸田市）

			国県 目標値	現状推計 (R16)	目標推計値 (R16)		
					ケース1 灰資源化 なし	ケース2 灰資源化 あり	ケース3 国県目標 達成
基本 的 な 方 針	ごみ総排出量	トン	36,308	47,004	46,011	46,011	41,123
	資源化率	%	28.0%	17.9%	20.0%	20.0%	28.0%
	最終処分量	トン	1,515	2,144	2,047	1,577	2
	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	g/人・日	440	422	396	407	352
基 本 循 環 画	1人1日あたりのごみ総排出量	g/人・日	850	842	825	825	737
	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	g/人・日	440	422	396	407	352
	資源化率	%	28.0%	17.9%	20.0%	20.0%	28.0%
県 基 本 計 画	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	g/人・日	440	422	396	407	352
	事業系ごみ排出量	トン	12,561	16,783	16,100	16,100	12,556
	1人1日あたりの最終処分量	g/人・日	28	38	37	28	0
	資源化率	%	33.6%	17.9%	20.0%	20.0%	28.0%